

レジメン番号	0026	レジメン名	DBd 療法 1-3 サイクル
登録診療科	血液・腫瘍内科	使用薬剤	ダラザレックス、ベルケイド デキサート/レナデックス
がん腫	多発性骨髄腫	インターバル日数	21 日

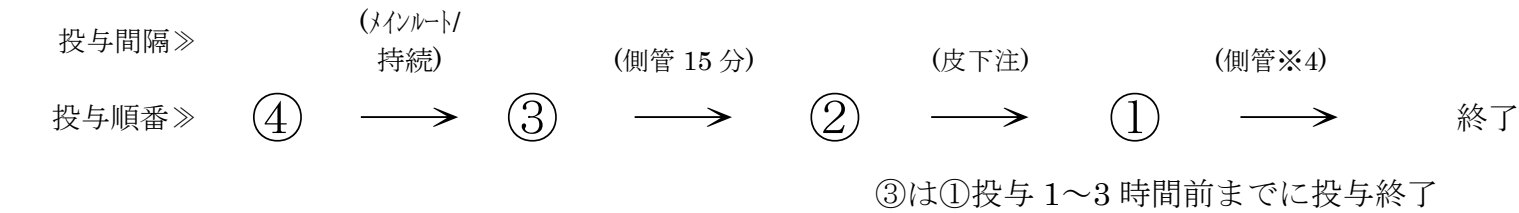
【投与量・投与スケジュール】

薬品名 投与量／体表面積	投与 方法	患者 投与量	Day1 (/)	Day2 (/)	Day4 (/)	Day5 (/)	Day8 (/)	Day9 (/)	Day11 (/)	Day12 (/)	Day15 (/)	…Day21
ダラザレックス 16mg/kg	点滴	mg	↓				↓				↓	3 週間を 1 コース
ベルケイド 1.3mg/m ² ※1	皮下注	mg	↓		↓		↓		↓			
デキサート D1-D14 にレナデックスと 合わせて 80mg/週 (原則 20mg/回) ※2 (D15 医師判断で実施)	点滴	mg	↓				↓				(↓)	
レナデックス D2-D14 80mg/週 (原則 20mg/回)	経口	mg		↓ (経口)	↓ (経口)	↓ (経口)		↓ (経口)	↓ (経口)	↓ (経口)		

(支持療法)
※3 Day1,8,15 経口剤あり

【当日の投与方法】

薬品名	規格	希釈液/量	投与速度/方法
① ダラザレックス	100mg	生食	※4 下記参照/輸注ポンプ
	400mg	初回：1000ml、2 回目以降：500ml	
② ベルケイド	3mg	生食 1.2ml	皮下注
③ デキサート	3.3mg	生食 100ml	15 分/点滴
④ 生食	500ml		メインルート/持続 初回：20ml/h、2 回目以降：50ml/h



【備考】

- ※1 ベルケイドの用量は 1.3mg/m²より開始し、毒性に応じて、1.0mg/m²、0.7mg/m²、投与中止に調節
- ※2 75 歳を超える、過少体重（BMI：18.5kg/m²未満）、コントロール不良の糖尿病又はステロイド療法に対する
忍容性がない、もしくは有害事象を発現した患者には、デキサメタゾンを 20mg/週で投与可
- ※3 ダラザレックス投与 1～3 時間前に、解熱鎮痛剤（アセトアミノフェン 1000mg）及び抗ヒスタミン剤の予防投与を行う
- ※4 ダラザレックス投与速度

投与時期	希釈後の総量	投与開始からの投与速度（ml/h）			
		0～1 時間	1～2 時間	2～3 時間	3 時間以降
初回投与	1000ml	50	100	150	200
2 回目投与	500ml 注 1				
3 回目投与以降	500ml	100 注 2	150	200	

注 1：初回投与開始時から 3 時間以内に infusion reaction が認められなかった場合、500mL とすることができる。
注 2：初回及び 2 回目投与時に最終速度が 100mL/h 以上で infusion reaction が認められなかった場合、
100mL/h から開始することができる。